

れている。

次に、この種の装置の実用化の可能性を考える時、まず最初に最も関心の持たれる点は、従来からの観測方法との整合性である。この点においては、本装置で観測された結果は、ラジオゾンデによる高層観測と比較しても概ね良く一致しており、時間的により詳細な高層風の観測装置として十分に信頼できると考えられる。また、この種の装置は、その原理上、観測することのできる高度範囲が大気の状態によって大きく変わることが欠点の一つと考えられているが、本機で観測された最高高度をゾンデ観測から得られた圏界面高度と比較したところ、対流圏内はほぼ常時観測可能なことが確認された。これは、本装置が現状では機器の状態が不完全なまま観測を行っていることを考え合わせれば、実用化に耐え得る装置であると考えられる。また、実用化の際には、その特徴を生かし、中小規模の気象現象等を考える上で、有効に使用することが可能な装置であると期待される。

参考文献

- Hauser, D., F. Roux and P. Amayenc, 1988: Comparison of two methods for the retrieval of thermodynamic and microphysical variables from Doppler radar measurements: Application to the case of a tropical squall line. *J. Atmos. Sci.*, 45, 1288-1303.
- 道本光一郎, 1988: 冬季雷雨観測速報 (レーダーエコー強度の高度変化と発雷), *天気*, 35, 613-614.
- , 1989: 夏季雷雨観測速報 (レーダーエコー強度の高度変化と発雷), *天気*, 36, 513-514.
- 遠峰菊郎, 道本光一郎, 阿部成雄, 1986: レーダーによる小松周辺の冬季雷の研究, *天気*, 33, 445-452.
- Tosha, M. and I. Ichimura, 1961: Studies on shower and thunderstorm by radar, *Pap. Met. Geophys.*, 12, 18-29.

平成2年度日本気象学会奨励金受領候補者の募集

昭和45年度より、日本気象学会は、研究費・研究環境に恵まれない会員の研究を奨励するために、「日本気象学会奨励金」制度を設けています。

周知のように昭和51年度からは、小・中・高校の地学教育に従事されている先生で、特に実践的な気象教育の研究をおしすすめられている個人またはグループ(少なくとも代表者は学会員)を、3件のなかの1件として、特に奨励金贈与の対象とし、気象教育の振興を図る一助とすることにしました。

本年度の受領を希望する会員、あるいは、他の会員を受領者に推薦しようとする会員は、申請要綱に基づき、下記の形式で応募あるいは推薦をして下さい。

締切：平成2年8月20日必着

送付先：〒100 東京都千代田区大手町 1-3-4

気象庁内 日本気象学会事務局気付
奨励金選考委員会

用紙：B5版 横書き

記入要領

1. 受領候補者氏名(ふりがな付)、印、生年月日、勤務先および地位、連絡先(郵便番号、郵便宛名)。
2. 研究項目
3. 研究経過と今後の研究計画(あわせて400字詰原稿用紙4枚以内)

印刷報告、学会発表のあるものは、題目、雑誌名、巻号頁数、あるいは、題目、学会名、年月を記入し、また、別刷、図表、写真等の参考資料があれば添付する。資料は原則として返却しない。

4. 受領候補者略歴。
5. 推薦の場合は、推薦者氏名、印、勤務先および地位、連絡先(郵便番号、郵便宛名および電話番号)、この場合は候補者の印は不要。

注) 共同研究は、1件として候補者を連名で記すこと。

奨励金申請についての要綱

1. 気象学、気象技術、および気象教育の進歩に貢献し得る将来性、発展性のある研究はすべて奨励金の対象となる。完成度の高い研究であることは必要条件ではない。
2. 大学あるいは研究機関に勤務している会員および他機関から既に研究助成金を受けているものについても、原則として対象から除外される。
3. 受領者の選定は、奨励金受領者選定規定に従って、理事長の委嘱する5名の選考委員によって行われ、今年度の贈呈は10月24～26日、京都府で開催される秋季大会において行われる予定。
4. 受領者は、奨励金受領後1カ年以内に簡潔な研究報告を理事長に提出する。